

2019年12月7日～2019年12月13日

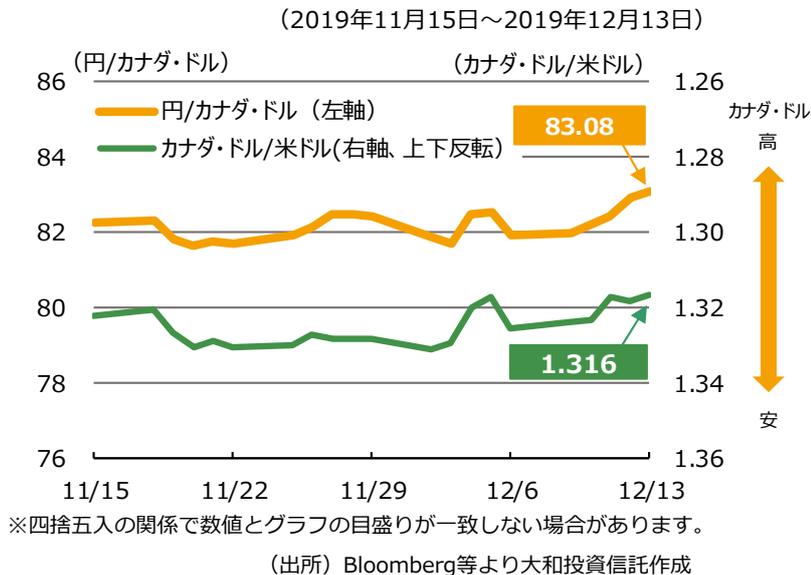
2019年12月17日

先週の回顧

カナダ・ドルは、対円で上昇しました。また、カナダ5年国債利回りは横ばいになりました。

カナダの金利は、米中通商協議において第一段階の合意がなされたとの報道や英国の総選挙で保守党が単独過半数の議席を獲得し、合意なきEU（欧州連合）離脱への懸念が後退したことを背景に上昇しました。ただ、週後半に米国の小売売上高が発表され、軟調な結果になったことなどから米国の金利が低下したため、カナダの金利は上昇幅を縮小しました。カナダ・ドル円は、原油価格の上昇などを背景に値を上げました。

カナダ・ドル 為替推移

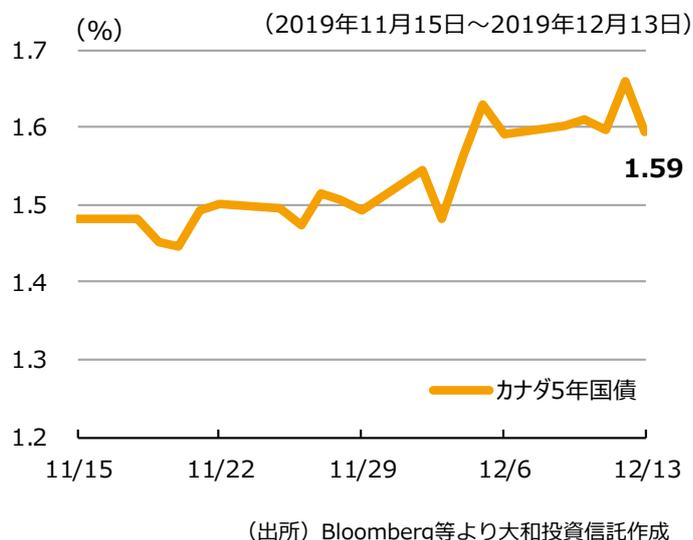


今週の見通し

今週、カナダではCPI（消費者物価指数）や小売売上高などの発表が予定されています。良好な結果になれば、カナダの通貨・金利の上昇圧力につながる可能性があります。また、米国では、NAHB（全米住宅建設業者協会）住宅市場指数が発表され、約20年ぶりの良好な結果になっています。

足元では米中貿易戦争や英国の合意なきEU離脱懸念などの政治リスクが後退しており、市場のリスクセンチメントが改善しているため、カナダの通貨・金利を下支えすることが見込まれます。

カナダ 金利推移



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。